

カナダの金融市場動向 Weekly Report

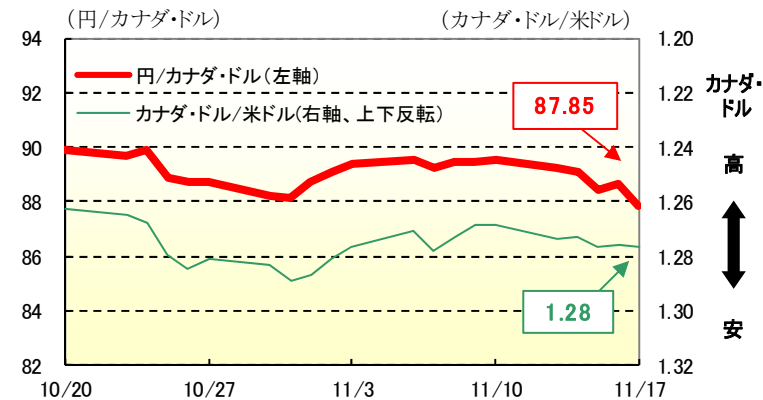
【2017年11月11日～2017年11月17日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドル円は下落し、カナダ5年国債利回りは低下しました。

先週は株式市場が軟調に推移するなど、ここもとの市場のリスク選好的な姿勢がやや後退したことなどを背景に、カナダの金利は低下し、カナダ・ドル円は下落しました。また、カナダではCPI(消費者物価指数)が発表されましたが、市場の予想通り前月から伸びが鈍化しました。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2017年10月20日～2017年11月17日)



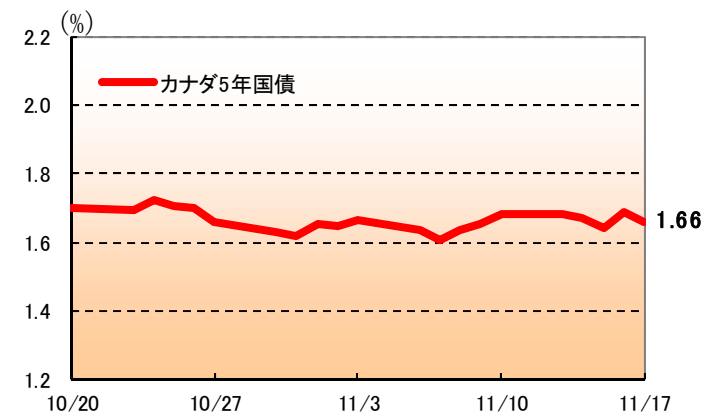
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

足元、原油価格は多少の調整を交えつつも堅調を維持しており、世界有数の産油国であるカナダの通貨下支え要因になると考えています。また、今週は小売売上高が発表される予定です。失望的な結果となった前月からの持ち直しが確認できれば、金利やカナダ・ドルの上昇要因になるとみています。

また、先週からメキシコでNAFTA(北米自由貿易協定)再交渉の会合が開催されています。NAFTA加盟3カ国が継続で合意しない限り、5年ごとに協定が自動的に失効する「サンセット条項」の導入や、「原産地原則」の厳格化など米国の要求に対する協議が中心になると見込まれていますが、協議は難航が予想されています。

【カナダ 金利推移】 (2017年10月20日～2017年11月17日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>